JA実践事例紹介

教育文化プランナーの挑戦（前編）

～JA広島市　教育文化プランナーが主導する組織基盤強化の取り組み～

小林 元
一般社団法人日本協同組合連携機構　常務理事

教育文化プランナー（旧教育文化・家の光プランナー）は、2003年に発足したＪＡと家の光協会をつなぐ制度であり、仕組みだ。教育文化プランナーに期待されることは、ＪＡ教育文化活動の司令塔としての企画の立案・実施の中心的な役割だ。同時に、農協運動・協同組合運動のリーダー、推進者、教育者としても期待されている。

近年では、組合員が多様になり、その結集力が課題となっているＪＡが多い。こうした課題に対して、全国のＪＡではＪＡ自己改革の中でのアクティブ・メンバーシップの取り組み、そして第30回ＪＡ全国大会決議にある組織基盤強化の取り組みを進めている。アクティブ・メンバーシップや組織基盤強化の取り組みは、単に活動をおこなう、組合員組織の面倒を見るということではない。教育文化活動を通じて、組合員との接点を広げ、ＪＡと組合員との関係性を戦略的に強化することが求められる。さらには、地域住民や組合員の次世代との関係を強め、新たなＪＡファンの輪を広げることも期待されている。すなわち、ＪＡの組織基盤を強化し、広げることで、ＪＡ運動とＪＡ事業、ＪＡ経営を強化するというＪＡ運営の屋台骨を支えているのが、教育文化プランナーの役割だ。

本稿では、広島県のＪＡ広島市の取り組みを紹介することで、教育文化プランナーに求められる体系的かつ戦略的なＪＡ教育文化活動のありかたについて、考えていこう。

1．ＪＡ広島市の教育文化プランナー

ＪＡ広島市は、広島県の県庁所在地である広島市のほかに、南は瀬戸内海の果樹栽培が盛んな島しょ部、北は島根県境に接する中山間地域に至る、広域な管内を有する広域合併ＪＡだ。ＪＡ広島市の組合員は、正組合員が14,096名、准組合員が107,637名で、合計121,733名（2026年４月現在）だ。

ＪＡ広島市は、2025年4月に、生活事業部と総合相談部を統合して、新たに組合員サポート部を設置した。この組合員サポート部が、ＪＡ教育文化活動の司令塔で、かつＪＡの組織基盤強化の取り組みの実践部隊だ。組合員サポート部は、総合相談課と地域ふれあい課、葬祭センターの２課１センター編成である。

組合員サポート部の清水守部長と、地域ふれあい課の上田千春課長が、教育文化プランナーに登録しており、ＪＡ広島市の教育文化活動を推進している。

清水部長のＪＡでの経歴は、入組後、電算に関わる経験が長く、その後、経営企画部署を経て営農経済部長を任されたという。そして、現在の組合員サポート部設置から、現職を務めている。これまで、経験された業務の中では、教育文化活動との接点は少なかったというが、「銀行などの金融機関との違いは教育文化活動にあって、ＪＡにとても必要なことだ」と語る。

地域ふれあい課の上田課長のＪＡでの経歴は、主に支店での経験が長いという。支店長の経験もあり、その時には、支店広報紙（支店だより）の発行や、組合員組織との関わりを通じて、教育文化活動に接する機会があったという。とくに、ＪＡ広島市の女性組織であるＪＡ広島市レディースクラブとの関わりを通じて、教育文化活動の重要性を認識したという。

2．組合員・利用者との接点拡大＝組合員サポート部の取り組み

新設された組合員サポート部は、ＪＡの総合事業の機能を最大限に発揮することを目的としている。組合員サポート部は、組合員の個々のニーズを、訪問活動や対話運動を通じて把握して、各事業部門と連携しながら組合員の願いをかなえ、課題を解決するという協同組合の事業の結節点となることが期待されている。

そのため、組合員サポート部は、大きく二つの方針を掲げている。一つは組合員・利用者との接点拡大による組合員・利用者の満足度の向上だ。訪問活動の対象者を明確化して、より効率的・効果的に個別訪問を実施して、出向く相談対応を強化している。

特徴的な取り組みは、地域総合サポーターの設置だ。この地域総合サポーターは、以前は営農指導員として活躍していた職種で、各支店に配属された地域に密着したＪＡと組合員との重要な結節点だ。広域で地域性が豊かなＪＡ広島市の管内では、地域ごとにその特徴や課題は大きく異なる。そこで、もっとも地域に密

着し、地域を熟知した地域総合サポーターが営農指導業務に加え、地域の相談ニーズを収集し、事業間連携により組合員の多様化するニーズへ対応し、組合員との接点強化をはかるという仕組みである。

近年では農業者の高齢化が進み、その資産の相続や事業の承継が課題となっている。地域総合サポーターは、将来の地域農業を担い、支える組合員を掘り起こすという、とくに農家組合員を対象とする次世代総点検運動の推進役である。この地域総合サポーターの活動を統括し、支える機能を、組合員サポート部が担っている。

地域総合サポーターの設置は始まったばかりであり、地域総合サポーター自身も、営農指導員との業務の違いが完全に理解されているとは言い難い、という。これからの取り組みということだが、組合員の声を直接聴き、その声を各事業部門に連携するという取り組みが深化することを期待したい。



地域総合サポーターによる、暮らし全体を支える相談体制

3．地域の活性化＝新たなＪＡファンづくり

組合員サポート部が掲げる二つの方針のうち、もう一つは、組織基盤強化の取り組みだ。組織基盤強化の取り組みは、①支店ふれあい委員会、②支店ふれあい活動、③支店広報紙、④組合員組織の活性化、⑤職員の協同組合理念の浸透の５つの柱がある。

①支店ふれあい委員会は、年２回開催され、今年度は「地産地消、国消国産の推進や、『食』や『農』に関する活動」、「地域貢献や地域活性化に向けた取り組み」、「その他、SDGsにつながる取り組み」を共通のテーマとして、協議をおこなう。特徴的な取り組みは、ＪＡ役員と本店のＪＡ職員が分担して、全支店の支店ふれあい委員会に参加していることだ。ＪＡ役員と本店のＪＡ職員が支店ふれあい委員会に参加することで、ＪＡ役職員と組合員の距離が縮まり、顔が見える

関係が広がることで、より組合員の声がＪＡ運営に反映されやすくなるだろう。

②支店ふれあい活動は、前述の支店ふれあい委員会の開催、地域への貢献活動、農業祭や地区まつりなど地域行事への参加、農業体験や食農教育などを通じて、地域の活性化や新たなＪＡファンの増加につながる企画を実践している。2023年度からは、支店ふれあい活動のコンクールを開催して、優良な取り組みを表彰するとともに、ＪＡ内での事例の共有化がはかられている。支店ふれあい活動は、支店ふれあい委員やＪＡ ＹＯＵＴＨ広島市（青壮年部）、レディースクラブ（女性部）などが協力して、支店の立地条件にあわせたさまざまな取り組みが実施されているという。



みそ作り体験教室にて、大豆栽培のようす

③支店広報紙は、原則、支店単位で毎月発行し、支店管内に住む組合員、地域住民とのコミュニケーションツールとして活用されている。前述の①支店ふれあい委員会、②支店ふれあい活動と併せて、ＪＡ広島市の組織基盤強化の取り組みは、支店を核として進められていることがわかる。取り組みの主体は支店であり、とくに支店長の組織基盤強化や、教育文化活動の理解や意識が重要となる。

④組合員組織の活性化では、ＪＡ広島市レディースクラブの活発な活動が顕著だ。ＪＡ広島市レディースクラブは創立30年以上の歴史ある組織で、ほぼ全支店を網羅した27の支部で約２,700名の会員が参加している。レディースのつどいや、親睦旅行、各種の研修など、支部を拠点に活発に活動している組織だ。各支店にレディースクラブ担当者を配置して、支部活動をサポートしている。地域ふれあい課では、5つのブロックに担当者を配置してサポートしている。

⑤職員の協同組合理念の浸透は、組織基盤強化の取り組みでもっとも注目したい点だ。全体研修として、管理職階層・中堅職員階層・入組１年目の階層という３つの階層で、階層別に教育文化セミナーなど協同組合理念の研修を実施してい

る。管理職と中堅職員の研修では、外部講師を招聘してとくに支店ふれあい活動の理解や実践の動機づけが意識された研修が実施されている。入組１年目の新入職員に対しては、組合員サポート部長自らが講師となり、『家の光』をテキストとして、協同組合の理念や支店ふれあい活動について学ぶ研修が実施されている。

また事業推進方針には、職員における協同組合理念の浸透が掲げられている。職員会議などでの「家の光三誌」などの記事を活用した勉強会の実施や、支店ふれあい活動の実施状況の共有化などをおこなう。



レディースクラブ 中筋支部活動



レディースクラブによる『家の光』を活用した勉強会



中堅職員を対象とした研修

４．ＪＡ広島市のＪＡ運営の司令塔

ＪＡ広島市の教育文化プランナーの取り組みを、その実践から整理すると、体系的かつ戦略的な取り組みのたいせつさが浮かび上がってくる。

ＪＡ広島市の教育文化活動の司令塔は、新設された組合員サポート部だ。組合員サポート部の機能は、体系的な出向く相談対応と、支店を核とした組織基盤強化の二つに大きく整理される。前者の出向く相談対応は、新設の地域総合サポーターを中心に、組合員との対話を事業につなげる取り組みだ。この取り組みは、ＪＡの運営において、戦略的な取り組みと言える。

また、支店を核とした組織基盤強化は、支店での活動を通じて、地域の組合員・利用者との関係性を強化し、また地域住民のＪＡファンを増やすという、こ

れもまた戦略的な取り組みだ。そして、そのための基礎的な位置づけとして、階層別の職員教育が用意されている。

すなわち、ＪＡ広島市の実践から、教育文化プランナーの役割は、体系的かつ戦略的な取り組みを企画し、実践することであることがわかり、まさにＪＡの運営のもう一つの司令塔であると言えるだろう。